

事例研究報告

**伝えたい！伝わった！
特別支援学校小学部児童の
絵カードを用いたコミュニケーション指導**

児童・生徒の実態

・小学部児童（自閉症）

受容：具体物とカードのスケジュールを活用。2個提示。
日常生活での簡単な言語指示が理解できる。
（「靴履く」、「座る」、「～行くよ」等）

表出：要求時、手を合わせるポーズで伝える。
遊びの要求や好きな給食のメニューではクレーン
動作や指さしが出やすい。

好きな物：お菓子、白ご飯、DVD、ボール、ウルトラマン、
戦隊シリーズ

保護者の願い

- ・言葉以外の方法で意思表示できるように
なってほしい。

教員の願い

- ・要求が伝わらない場合などにひっかく等の行動が出る(困っていること)。
→自分の要求を相手に伝えられる経験を増やし、誰にでも伝わる方法で、より良いコミュニケーションを担任教員以外にもとれるようになってほしい。

Beforeの取り組み

—給食場面にて—

【Step 1】 9/3(月)～7(金)
おかわりが欲しい時、食器を教員に渡す。

【Step 2】 9/10(月)～ ★1回目コンサル
「ください」カード→実物から選ぶ。

【Step 3】
「ください」カード→食器のカードから選ぶ。

【Step 4】
食器カードを「ください」カードの横に貼って渡す。

【Step 5】
食器カード+「ください」カードを渡す。



◎コミュニケーションの指導について

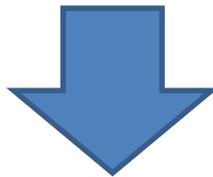
- 給食で偏食指導とコミュニケーション指導の両方は難しい。給食場面は楽しい雰囲気にする。
- 給食場面で指導することをやめ、対面課題など別の場面で行う。→PECS(絵カード交換式コミュニケーションシステム)を実施してはどうか？

助言を受けての見直し

◎コミュニケーションの指導について

【Before】

- ①給食場面での指導(40分程度)
- ②献立によって、好き嫌いがある。



【After】

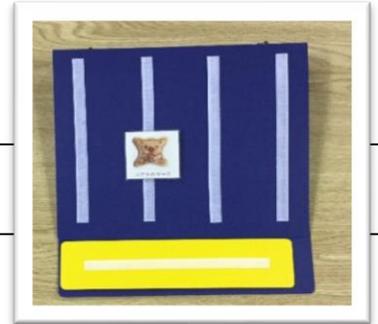
- ①対面課題でPECSの指導。(2～3分)
- ②保護者と連絡帳でやりとりを行い、好きなお菓子を好子として使用する。

指導の手続き

【フェイズⅠ】 10/11～11/9

絵カードを取り、コミュニケーションパートナー（CP）の教員に手を差し出し、手渡すことができる。

達成基準→80%以上自立が2日連続



【フェイズⅡ step1】 11/16～12/3

絵カードをブックから外して、CPに手渡すことができる。

達成基準→100%自立が3日連続×CP2名

※確実な習得のために、フェイズⅡから達成基準を変更する。

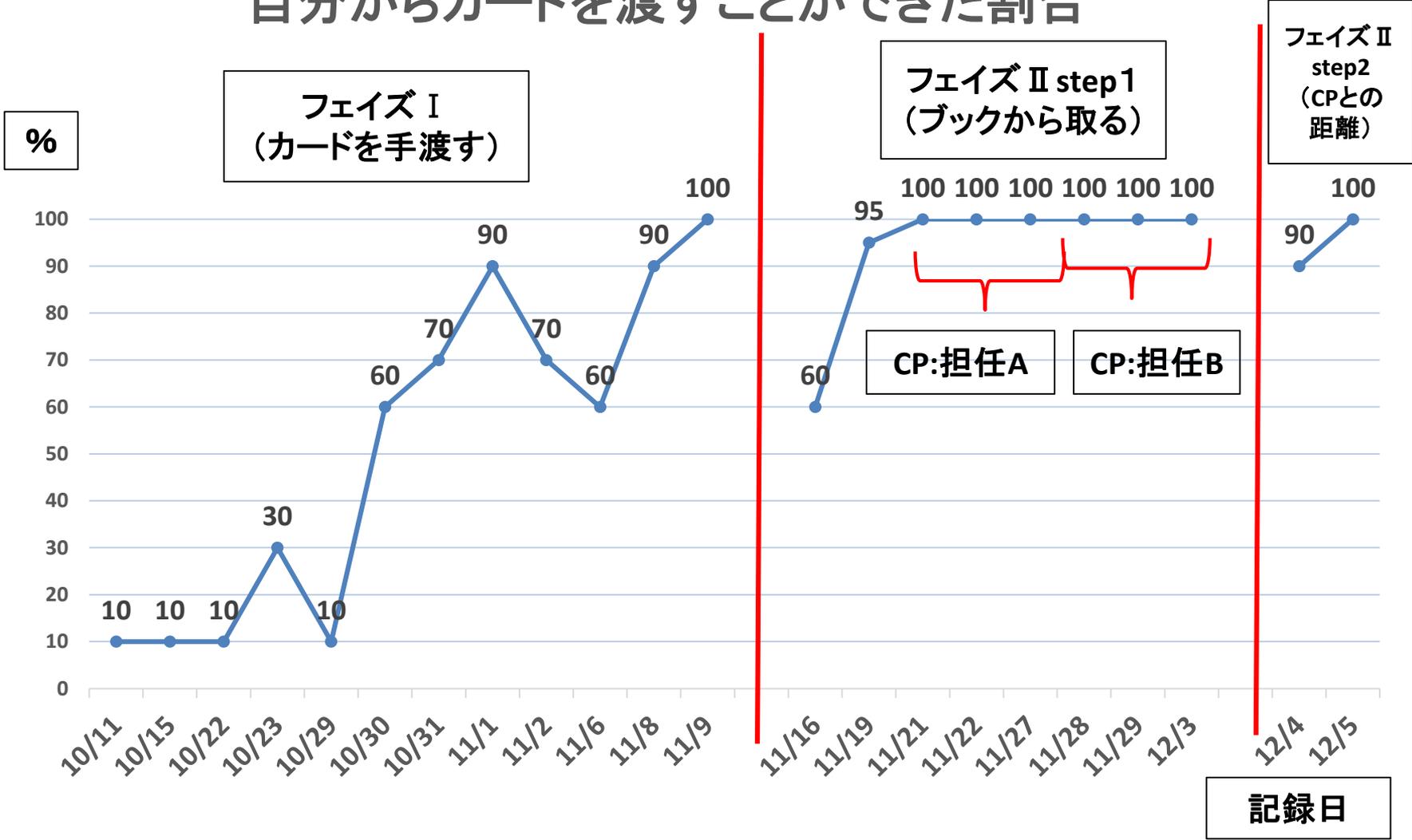
【フェイズⅡ step2】 12/4～12/5

絵カードをブックから外して、CPのところに移動して手渡すことができる。

達成基準→100%自立が3日連続×CP2名

指導の結果

自分からカードを渡すことができた割合



ここが成功のポイント

- 対面課題でPECSの指導を行ったことで
短時間で、連続して、好きなもので、取り組むことができ、
習得するまでのスピードUPができた。
- 連絡帳で最近の好きなもの(おかし)を保護者から聞き、
好子として取り入れた。



- 給食場面と違い、「好きなおかしがもらえた！」
「相手に伝わった！」が分かりやすく実感できる。
→ PECSの学習時間を楽しみにしている様子で、笑顔
も見られた。

アドバイザーからの助言

2回目のコンサル

◎PECSの指導について

- ・マニュアルでは2人体制だけど...
児童の実態を見て1人体制で指導する。
- ・プロンプトを出すタイミング(秒数)を統一する。
- ・PECSのブックは児童にとって伝えるツール。
ブックは常に児童が使える位置に置いておく。
- ・課題のPECS→日常生活で使えるものにする。

～その後の様子～

- ブックがどこにあっても、先生がどこにいてもカードを手渡せるようになった。
- おもちゃやDVDのリモコンの要求など、普段の生活でも伝えられる場面が増えた。
- 担任以外の人に渡せるようになった。
「やった、伝わった！」→ 本人も嬉しい。
「伝えてくれた！分かった！」→ 教員も嬉しい。

